



六甲山魅力再発見市民セミナー

市民セミナーVol.12
六甲山系グリーンベルト整備
事業について/赤曾部 俊則
2009年3月発行

第12回テーマ:

六甲山系グリーンベルト 整備事業について

講演内容

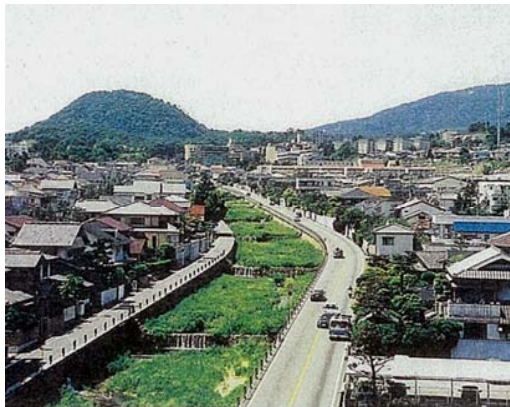
- 逆瀬川の砂防事業について
- 六甲山系グリーンベルト
整備事業について
- グリーンベルト整備事業と
住民参加の森づくり

実施日：平成21年3月21日(土)
午後1時～3時45分
場所：六甲山YMCA



あかさべ としのり
講師：赤曾部 俊則さん
プロフィール

1961年神戸出身。神戸大学工学部卒業後、平成元年に兵庫県職員となる。土木関係の職務を担当し、平成19年度からは宝塚土木事務所で宝塚市内のグリーンベルト事業を受け持つ。



現在の逆瀬川の様子

陽春の六甲山は花がさわやか

久し振りの快晴で、表六甲ドライブウェイにはタムシバの白い花が鮮やかでした。連休の中で集まりにくい日程でしたが、セミナーの参加者は18名になりました。午前中のボランティア活動に14名が参加し、記念碑台周辺の散策路でクロモジやアセビの花を楽しみながら汗を流しました。

山と地域住民のいのち・生活を守る技術者

兵庫県阪神北県民局宝塚土木事務所・治水課長の赤曾部さんにお話をいただきました。赤曾部さんは長年グリーンベルト整備事業に携わり、現在は武庫川を中心に、六甲山東側の治水事業に取り組まれています。

今回は兵庫県近代砂防発祥の地と言われる逆瀬川の砂防事業と、近年新しく始まったグリーンベルト整備事業の構想、住民との森づくりの取り組みについて、体系的に分かりやすく解説していただきました。

広大な地域の樹林を維持管理していくのは行政の力だけでは限界がある。地域住民と行政とが協力して、山を守り育てていくことを強調されました。

砂防事業の変遷とグリーンベルト整備事業

逆瀬川上流一帯は、現在緑豊かな山麓ですが、昔は「千石ずり」と呼ばれ荒廃が進んでおり、常に土砂災害などの脅威にさらされていました。

逆瀬川は兵庫県ではじめて本格的な砂防事業が行われた場所です。土砂の流出を防ぐため



「逆瀬川砂漠」と呼ばれていた
逆瀬川(大正時代)

川の流れを安定させる流路工など、様々な砂防工事の発展により、昔は河原だった荒地の上に、現在は住宅地が広がっています。



逆瀬川の流路工(昭和7年ごろ)

100年以上にわたる治山・砂防事業で緑を取り戻し安全地帯となった六甲山麓。それと同時に市街地も山裾へ発展・拡大してきました。グリーンベルト整備事業は、これまでの土砂災害対策から発展して、六甲の樹林帯を防災緑地として整備し、山自体を土砂災害に強くすることにより、安全で自然豊かな六甲山を目指すという新しい取り組みです。

住民参加の森づくりの大切さ

人のいのちと生活を守ってきた砂防事業の取り組みに感謝の気持ちが湧きました。災害は、人間の生活と自然が切り離されることによって起こります。当会でも、六甲山と市民の生活の関係を考え、そして森づくりの楽しみを見出して継続的に活動したいと思います。

※詳しくは、1、2ページをお読みください。

参加の感想 寺垣 耕平さん

「六甲山の緑の歴史」について、逆瀬川の砂防工事から始まり、治山・植林を経て現在のグリーンベルト整備事業に至る過程を報告されました。

逆瀬川のいわれは六甲山特有の土砂流出にあること、荒廃した山(千石ずり)、逆瀬川砂漠の写真、砂防堰堤の石積みの変遷、山腹工事の様子などは特に興味深く、よく理解できました。



主催：六甲山自然保護センターを活用する会

協力：兵庫県立人と自然の博物館

後援：兵庫県神戸県民局 灘区役所 神戸市教育委員会

【助成金をいただいている機関】

コベルコ環境保全基金、灘区役所

公益信託自然保護ボランティアファンド、

公益信託 TaKaRa ハーモニストファンド